

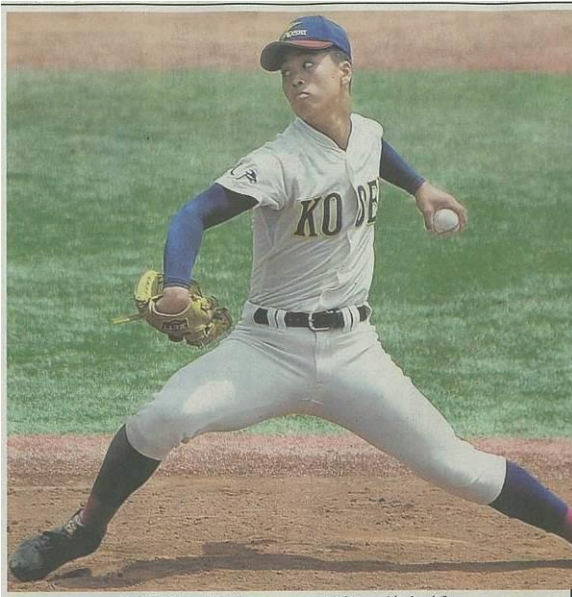
第64回 春季東北 高校野球 第4日

第64回春季東北高校野球大会は第4日の11日、宮城県石巻市民球場で準決勝2試合を行った。優勝は第3代表の八学光星が1点をリードする終盤に6点を追加し、7-0の八回コールドで東日大昌平(福島県第3代表)を破り、2年ぶりの決勝進出を決めた。大会最終日の12日は同球場で決勝を行い、八学光星が優勝を懸けて仙台育英(宮城県第3代表)と対戦する。(佐々木大輔(工藤俊介)

光星快勝 決勝進出

東日大昌平(福島)を7-0

▽準決勝(石巻市民球場) 八学光星(0)対東日大昌平(0) 7-0。八学光星投手陣：成田(4回コールド)、薄井(1)、小淵(2)、小池(3)、吉田(4)。東日大昌平投手陣：菅野(1)、松本(2)、近藤(3)、小加(4)、コールド勝ち。右前には三塁返し先制し、主砲小池の3連続適打。【評】八学光星は5回、2死、二塁のチャンス。八回にも2点を追いつき、三塁打で逆転。三塁打で逆転。三塁打で逆転。三塁打で逆転。



八学光星は先発成田が緩急自在の投球で密封し、チームを2年ぶりの決勝へ導いた。県大会で一度自信を失いかけた2年生左腕。豊富な変化球と正確な制球を武器に、名門校のエース争いに名乗り上げた。県大会準決勝の聖戦に登板した成田は、高めに浮いた球を中心に打ち込まれた。無念の途中降板。

成田 気迫の8回零封

県大会の敗戦糧に成長

板となりチームも敗退。自身の投球フォームを「力不足だった」と悔い、思いを吐いた。仲井監督が「全ての球に気配がある」と評した。成田の強みは、変化球の多彩さ。二塁打で逆転。三塁打で逆転。三塁打で逆転。三塁打で逆転。三塁打で逆転。



2回裏、東日大昌平2死一、二塁、左前打で二塁走者・薄井が本塁を狙ったが、八学光星の左翼手・小淵の好返球でタッチアウト。捕手・齋藤。

Scoreboard table showing match results for various teams including Hoshikage, Higashi-Nippon, and others, with columns for innings, runs, hits, and errors.